

## R4 年度 モコ末広保育園 園評価

### 保護者アンケートより

保育園、保育士への感謝の気持ちや、温かいご意見を沢山いただき、保護者との信頼関係が深まったことを感じた。

コロナ禍で行事を縮小したこともあり、保護者アンケートでは行事開催についての希望が多々あった。そのため保育園における子どもが主役の保育園の「行事」の在り方について再考した。

子ども達が楽しい、やりたいと思える「行事」とは何か。本来重視したい「あそび」の時間を削ってまで行事のための練習を子どもが望んでいるのか。日常ではないわが子の姿を見てもらう意味があるのか。「あそび」＝「学び」の行事への反映の仕方、子どもの「楽しい」「やりたい」を叶えるための行事とは何か。親子の関わりを深めるための行事とはどんなものか。様々な検討を重ね、「行事＝日々の生活（あそび）の延長上にあるもの」と捉え行事を行った。ありのままの子ども達の姿を見ていただき、そこに至るまでの過程を重視するのがモコの行事だと考える。

0.1.2 歳児に関しては、「日々の生活（あそび）を大切にしたい」という思いが強くある。子ども達の小さな発見や感動、日々の中にある小さな成長を保護者の方と共有し喜びを分かち合うことがとても大切だと考える。保護者に見せるための行事より、毎日の「安定した生活やあそび」を第一に優先してきた。またそれは、子どもの育ちを考える上で、最も大切にしなければならないことだ。

3.4.5 歳児に関しては、コロナ禍の為、今後も「運動の会」「モコの会」は引き続き各クラスの開催になる可能性がある。できる範囲の中で子ども達の「やりたい」気持ちを大切に、それが実現できるようにサポートしてきた。子ども達が作り上げる行事になるように、またそこに至るまでの過程を楽しんだり、人間関係を育んだり、学びを深めることに重点をあてた。見せるために大人が練習を重ねさせる行事の見直しは必須だった。家庭でも子ども達の会話や姿に共感していただき、保護者も子ども達と一緒に楽しんでいくことが大切だと考える。そのために、職員は子ども達のあそびや学び、成長した姿や思いを写真を交えながらドキュメンテーションやエピソードとして掲示、お便りで発信を重ねてきた。

アンケートの中では、「成長を感じたエピソード」も沢山ご記入いただき、保護者の方と子どもの成長を共有できてきたことを実感し嬉しく思った。

### 職員評価より

「保育理念」「保育目標」「目指す子ども像」は保育園の核となる。そこを深める為に前年度同様、朝の職員打ち合わせ、月1回2時間の全体会議、月1回のクラス会議を設けた。連絡事項、保育の方向性、保育内容、保育の振り返り、子どもの姿等を職員同士共有できるように努めた。様々な策により、昨年度以前より情報共有や伝達はスムーズになってきている。しかしシフト制による職員の配置に加え、保育時間中での情報共有の難しさまだまだを感じる。職員からも時間の確保についての意識付けが必要だと考える。

また職員一人ひとりが今以上に向上心を持ち「子ども主体の保育とは」という点を更に深めてきた。質の向上を実現する上でも研修や会議や語り合いの時間は必須であるが、日々保育が行われている職場での研修や語り合いの時間と保育に向かう時間とのバランスは大変難しい問題である。しかし、学びへの意欲は職員のなか育っている。職員の子どものために学びたい、自分のキャリアアップのために学びたいという気持ちを大切に保護者の協力も得ながら時間の確保を考えていきたい。

保育の方向性が伝わるように各クラス毎月玄関に保育ドキュメンテーションを掲示した。保育ドキュメンテー

ションを掲示したことで、保育園の保育方針や各クラスの様子、子ども達の成長が保護者にもわかりやすく伝わったのではないかと思う。モコの保育の視点、子ども達が今何に興味を持ち夢中になって遊んでいるのかを「見える化」出来たことで、保護者だけでなく職員同士もお互いの保育を確認することができた。クラスのつながりを作る上でも、保育ドキュメンテーションを続けていく必要性を感じる。

そして、各クラス、週1回のTwitterで子ども達の気付き、思い、驚き、喜びが速報のように、保護者へ伝わるように発信を重ねた。子ども達の「楽しい」や「興味」「関心事」を家庭でも共有していただけるよう発信を続けたい。またそれが親子の会話に繋がっていくように声かけしていくことも大切だと考える。職員自身もモコの保育の視点を磨く訓練となっているように思う。

10人保育士がいれば10通りの子どもへの思いがあり、多くの保育方法やサポート方法がある。今後はもっと保育士同士、子どもの姿や成長を語り合う事を大切にしていきたい。語り合いの中で日々を振り返りながら保育は明日へとつながると考える。そのためには、保育士が時間と心に余裕を持つことがとても大切になるだろう。

## 園総合評価

正直コロナ対応に追われた日々だった。保育では「子ども主体の保育とは」を意識した1年だった。子ども達からの「こんなことをやりたい」「あんなことをやりたい」という気持ちを大切に、保育士が見守る大事さ、あそびを発展させていく大変さ、保育士の質の重要性を改めて感じる1年だった。子ども達のやりたいあそびに気付き、そのあそびをどう発展させていくかは、保育士の技量にもかかってくるが保育士同士が同じ方向を向くことと、そのための語り合いがとても重要だと感じた1年だった。職員同士が切磋琢磨して良い関係性を持つことで、保育園全体の士気は上がってくると信じている。子ども達が自らモコの「目指す子ども像」に育っていくために、前期から引き続き園庭の在り方や保育室の環境を改善してきたが、まだまだ課題はあり模索中だ。

保育園は、子どもの生活を支える場であるとともに、保護者が抱える子ども達の成長や悩み事を語り合え相談できる身近な場として利用してもらうことが理想である。そのためには、保護者、保育士が共感、共有できるような信頼関係を持てる事が大事だと考える。法人の理念でもある「子ども一人一人に寄り添い丁寧な保育」を心がけ、保育園が保護者と保育士が語り合える場所になるよう努力していきたい。